

# 龍源寺報

令和4年（2022年）春彼岸号

|            |              |
|------------|--------------|
| 臨濟宗・妙心寺派   | 住職 松原 樹      |
| 佛母寺住職 松原 行 | 正福寺住職 松原 樹   |
| TEL        | 03-3451-1853 |
| FAX        | 03-3451-6094 |

振込 00160-0-104918 東京都港区三田5丁目9-23 (郵便番号 108-0073)

Email: info@ryugenji.com URL: http://www.ryugenji.com

## 春彼岸におもう

私たちが、不安と苦しみを抱きながら一歩先は闇であることを心得つつ、危ない不確かな日々を歩んでいることは、東日本大震災や新型コロナウイルスの感染症の経験を通して、多くの人が感じていることだと思う。

七世紀の初頭、聖徳太子は推古天皇と蘇我馬子と協力しながら、激動の時代を生き抜いた。聖徳太子の著書である『法華義疏』の冒頭部分に、善いことは、どんな些細なことでも悟りに結びつくという意味の「万善同歸ばんぜんどうき」という言葉がでてくる。例えば、追善供養とは、亡くなった人が生前成し遂げることができなかったことを遺された者がかわって善事をするのであるから、僧侶に読経を頼むとか法要に参加する前に、私たち一人一人が、どんなに小さなことでもよいから善いことをすることが肝要になる。

ご家族を亡くして悲しみの中で春彼岸を迎える方もいらっしゃる。ゲーテ著『ヴィルヘルム・マイスターの修業時代』収録の詩で、鈴木大拙が訳した詩を再度みてみたい。

悲しみの中にそのパンを食したることなき人は、  
真夜中を泣きつつ過くし、  
早く朝になれと待ちわびたることなき人は

ああ汝天海の神々よ、此の人は未だ汝を知らざるなり。  
(鈴木大拙『禅の第一義』)

悲しみを経験した人、真夜中を泣きつつすごした人、明日の朝を待ちわびた人、朝にならなければこれ以上、私は生き続けることができない、そういうことを経験した人こそが、神々を本当に知った人であるという。つまり、深い孤独や悲しみの中で、一人ひとり異なる味わいが、その人らしさとして開花することをこの詩は教えてくれる。

仏教においても、悲しい感情を心の中で大切にしていると、心は醒悟さとするという「常懷悲感、心遂醒悟」(『法華経』「如来寿量品」)という語がある。

これは、前述したゲーテの詩と内容的に結びつく。中国・唐の時代の司空山本淨禪師しくうざんほんじょうは、ある時、弟子から「観音さまをみるにはどうしたらよいか」という質問に、「処に應じて本より無心なれば、始めて名づけて観自在となすことを得たり」と述べる。処に應じるとは、どのような時でも、どのような対象にでも、無心の気持ちで対応できれば、そこそが観音さまを観ることだという。言い換えれば、コロナ禍の今でも、大切なことを見つけるためには、「観自在菩薩を観る」つまり、真理を見極める目を持つことであると教えてくれている。それには、一人ひとりが坐禅のような静寂な時間を、どのような時にも、持つことではなかるうか。(信樹)

ご 寄 付

境内における施設管理費として

金二百万円 石井公一郎殿

金五十万円 匿名殿

かんのんさまに

金十万円 芝 康平殿

ありがとうございました

※大変貴重なご寄付をありがとうございました。龍源寺の周囲が再開発される中、龍源寺を地域の文化資源の一つとして考え、先代から引き続き、境内整備に力を注いで参りたいと思います。未熟者ですが、今後とも宜しくお願い申し上げます。

松原信樹

春彼岸会

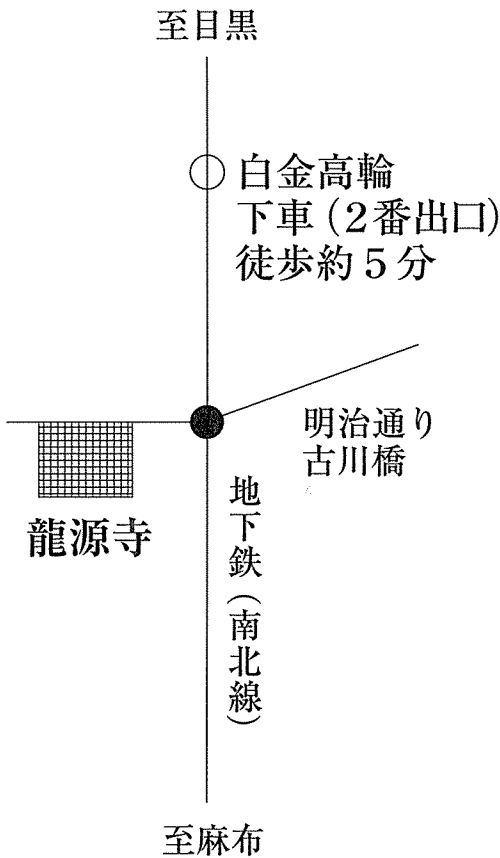
一、三月二十一日（月曜日・春分の日）

午前十一時より

一、法話

・駐車場はありません。

南北線をご利用ください。

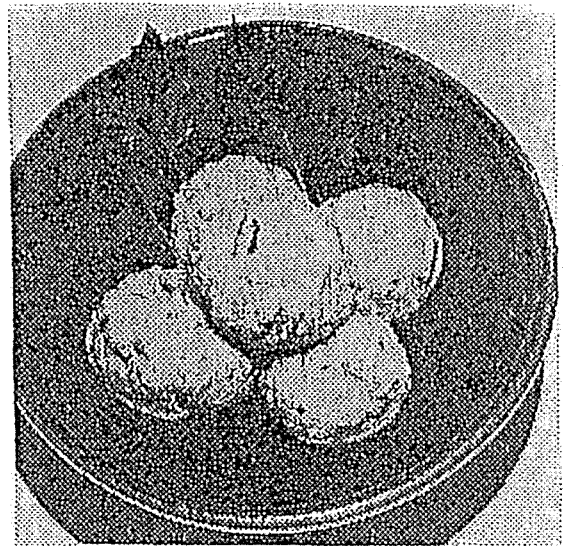


味覚歳時記

ひ りょう ず

# 飛龍頭

松原静子



通称、がんもどきの名で知られる飛龍頭ひりょうず。これも禅寺に伝わる精進料理です。

十五個分の材料は、山芋少々、卵白一個分、もめん豆腐三丁、生しいたけ三枚、にんじん¼本、ユリ根少々、ぎんなん十五個。

まず、山芋をすり鉢ですったあ

と、卵白と混ぜ、水きりしたもめん豆腐と、よく和えます。

千切りにした、にんじん、細かく切ったユリ根を、サツとゆで、生しいたけも細切れにして、先ほどの豆腐の和えものと混ぜます。

そして、手のひらに油をつけ、中にぎんなんを入れながらピンポン玉ほどに丸めて、きつね色になるまで揚げればできあがりです。

揚げたてを、塩や、しょう油をつけていただいてもけっこうですし、昆布と、しいたけのだし汁で煮ても、おいしくいただけます。

冷蔵庫の残り物で簡単に作れますので、手作りの味を楽しんではいかがでしょう。

柳 緑

花 紅

この度は、高額なご寄付をありがとうございます。古川橋周辺が再開発される中、龍源寺境内を文化資産の一つとして考え、境内整備に力を入れていきたいと思っております。今後とも、未熟者ですが宜しくお願い申し上げます。

四月に四国の徳島・香川へ上げます。▼四月に諸地方を巡り布教すること）を予定していましたが、コロナの影響で中止となりました。オンライン会議が多くなりました。会議は異なる声や視点を提示し共有しあう機会だからとても大切なのですがそれほどオンラインラインになり、ある程度のデジタルの知識が必要不可欠になりました。かなりアナログな私にとって大変な時代になりました。▼古い書院の修復工事が終わりました。百年近く前に建てられたその書院は、龍源寺で唯一歴史を感じさせる建築物となりました。また、彼岸会や盂蘭盆会の折、皆さまにご利用いただきありがとうございます。▼オミクロン株が未だ収束しない今日、お正月に祈禱した疫病退散の

お札を春のお彼岸会でもお持ち帰りいただくと思っております。お札をお持ちでない方は、彼岸会の後、お持ち帰りください。▼毎月第一土曜日午前十時からのお禅の会（坐禅会）と毎月十八日午前十一時からの観音講は細々ですが行っております。写経教室と仏像を彫る会は、しばらくお休みさせていただいております。▼娘の瑞樹は、今春で幼稚園の年長さんになります。娘に、「経験を感じたことを大切に、わからなくても、すぐに諦めないこと」を様々な喩えを交えて伝えますが、なかなか聞いてくれません。そういえば、祖父・泰道は、副住職時代の会（港区三田）の子供達を集めて童話の会を開催し、その経験が法話のためになったと言っていました。きっと、間で伝えていくことであつたり、かみ砕いて丁寧に説明していくということなのでしょう。コロナがくれたプレゼントだと思つて、娘と向き合っていきたいと思つます。家内は、お寺と会社の仕事、家事育児を両立してくれています。さすがに徹夜の仕事は体力的にきつくなつたと

言っています。母は、特に大きな病気をすることもなく元気にしております。結婚当初は、「同居で大変ですね」という声をよく耳にしましたが、最近では「同居、いいですね」に変わりました。姑さんと同居でも同居でなくても結局一緒なのでしょう。大変ありがたく思っています。▼病院からの流れの中で決まってしまうケースが多いようです。お葬式をされる場合、まず、はじめに龍源寺か深夜でしたら「あおば葬祭」○三一五七二二―七六五一（目黒区下目黒五―七―一）を紹介させていただきたいと思つます。葬儀、密葬、家族葬など気軽にご相談ください。▼今、原稿を書いているのは三月三日、玄関の白い梅の花が満開に咲いています。三月二十一日春分の日、春彼岸会を厳修致します。サーモグラフィでの検温、マスクの着用、手指の消毒、外階段を使用して外からのご焼香、エレベーターを使つての本堂内でのお焼香も可能です。もちろん、事前にお知らせいただければ、御来山いただかなくても当日御回向させていただきます。（信樹）